神奈川県考古学会

考古かながわ

第20号

2001年3月31日

神奈川県考古学会の機構改革案について

総務担当

神奈川県考古学会は、発足して10年を経過し、会員各位の協力を得て、多くの実績を挙げることができました。一方会の運営組織としては、役員構成数が30名となり、運営事項の協議方法等に見直すべき事項が顕在化してきたために平成12年度後半から機構上の改革案について会長・副会長と総務担当役員が中心になって協議を重ねてきました。

改革案の主な骨子は、これまでは「役員会」で全ての課題を検討・協議してきましたが、役員構成数が30名となり、迅速な意志決定が困難になりつつあったので、改革案では「役員会」とは別に「幹事会」を新たに設けたことと、従来あった「担当委員会」の再編を行い、併せてそれらに実務上の権限委任を行い、会の円滑な運営を図るものです。

1．役員会等の機構改革案

従来は、全体の会議を隔月にもち会の運営事項を協議してきましたが、必ずしも円滑な運営がおこなわれている状況とは言い難く、会の活動をより強力に推進する必要があるため、「役員会」の構成は現状のままとし、新設の「幹事会」に実務を委ねることとします。

2．「幹事会」の新設

事業別の担当制度の強化を図ることにより、新たに会長・副会長・総務部会及び各担当の長で構成する「幹事会」を設け、運営の円滑化を図ることとします。

3．事業別の「担当委員会」の名称改正及び組織の改編

事務局の位置づけが確立されていなかった現状と、担当役員の個人的な努力にたよってきたという実態とともに、会計は総務と一体になって活動することが望ましいということなどの反省に立っての改編です。

現在、各事業ごとに設置されている「担当委員会」を各「担当」(仮称)と名称変更するとともに、会計を総務部門に統合し、総務部会が事務局となります。

4．会長・副会長の選任

現行では会長・副会長の選任も現幹事の中から選んでいる関係から、今回の役員の任期の限定によって任期満了になった場合はその職に留まれないケースも生ずることがあるので、会長・副会長は役員の中から互選するのでなく、会員の中から役員会で推薦する方法とします。

5．幹事・監事の選任

幹事の留任の期間が長いことはマンネリ化を招きかねないので、一定の期間を定めることとし、再任の任期は三期6年までとします。ただし、その後一期2年以上経過した場合は、選任の候補者となれます。

総会のご案内

日　時　　6月3日(日) 午後1時より
会　場　　かながわ県民センター 301会議室
その他総会後、「かながわ考古トピックス」を開催します。

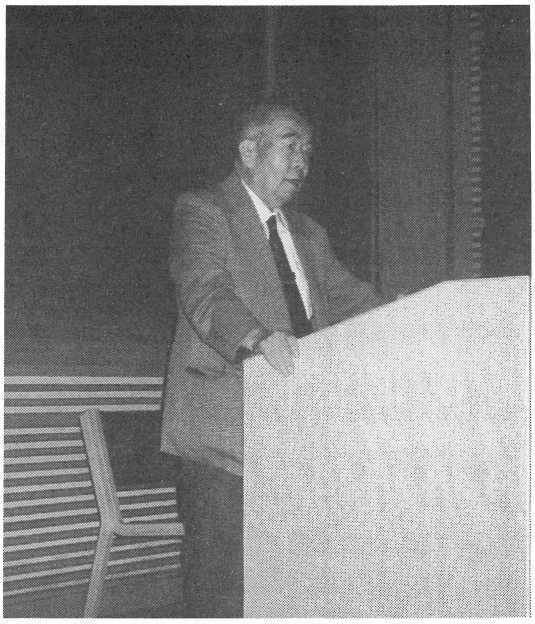
第24回神奈川県遺跡調査・研究発表会

2000年10月１日に横浜市の鶴見大学会館において、第24回神奈川県遺跡調査・研究発表会が開催されました。今回は神奈川県考古学会設立10周年記念大会として、初めて研究機関である大学との共催という形での開催となりました。会場は最先端の技術を導入した全てコンピューター制御の施設で、しかも操作はすべて実行委員会が行うということで役員の間には緊張が走りましたが、AV関連機器も充実しており鶴見大学会館ならではの調査・研究発表会となりました。

開会にあたり主催者の神奈川県考古学会寺田兼方会長、引き続き共催の鶴見大学大三輪龍彦教授の挨拶の後、「縄文時代初頭の古環境と河川利用について」の研究発表をかわきりに、昨年度から今年度の始めにかけて注目された遺跡のなかから縄文時代２遺跡、弥生時代３遺跡の事例報告、昼休みのあとOHPやビデオ映像を取り入れた「大和市上草柳第３地点南遺跡」の研究発表そして、慶應義塾大学江坂輝彌名誉教授の「神奈川県下貝塚調査の思い出」と題した記念講演をはさみ、古墳時代１遺跡、古代２遺跡、中世・近世各１遺跡の事例報告が行われました。

第24回の遺跡調査・研究発表会は、初めての試みが三つありました。一つは、これまで地方自治体との共催というかたちをとってきましたが、今回は研究機関である大学との共催で行いました。もう一つは、これまで開催地の自治体職員の方に準備段階から大きな負担をおかけしていましたが今回からは実行委員会形式をとることにより役割分担をし、遺跡調査・研究発表会の開催が過大な負担とならないようにしました。いまひとつは、永年の課題でありました研究発表を取り入れられたことです。

初めてずくめの第24回遺跡調査・研究発表会をご回答いただいたアンケートと振り返ってみたいと思います。



江坂先生の特別講演

まず、開催地及び会場についてですが、参加者の多くが横浜市内在住者で、開催地の希望についても横浜市内が最も多くなっています。開催地については、これまでは横浜→その他の地域→横浜→その他の地域で繰り返して開催してきていましたが、開催地を横浜市内に固定しては？という意見もあり今後も検討して行く必要がありそうです。今回の会場については、JR鶴見駅から徒歩１分で、まだ新しく雰囲気も良く設備の面でも充実しており概ね好印象でありました。

次に事例報告についてですが、「時間が短い」、「物足りない」、「２回に分けて開催を」といった意見がみられました。発表遺跡の数や時代、内容については、発表される遺跡の所在地や遺跡の時代、内容が偏らないように注意して選定しています。それでもどうしても外せないものについては、誌上発表として発表要旨に入れるようにしています。回数を増やせばより多くの遺跡や研究発表についての内容をみなさんに知っていただくことができると思いますが、この他の行事や現在の役員の人員構成では非常に困難と思われますが今後の検討課題としていければと思います。

つづいて研究発表ですが、鶴見大学のお力添えによりビデオを用いた研究発表には多くの反響がありました。今後は発表媒体の多様化も必要と思われます。研究発表は遺跡調査の事例報告に比べて時間をより多く必要とします。今回もできる限り多くの時間を割り当てたつもりでいしたが質疑応答の時間がとれなかったことが残念だったというご意見をいただきました。しかし、研究発表については心強いご意見を多数いただいており、出来る限り続けて行きたいと考えております。

記念講演については、神奈川県考古学会設立10周年記念ということで神奈川県の考古学史をひもとくような貴重なお話には多くの方が感銘を受けられたようです。記念講演は開催地の遺跡の特徴やその地で活躍されている研究者の方それに発表される遺跡の内容などを鑑みて選考されています。

調査・研究発表会全般については、「調査・研究発表会の時に発掘された遺物を展示して欲しい」といったご意見がありました。市町村が主催する遺跡調査発表会では同時に出土した遺物や遺構・出土状況の写真などを展示しているところが多くあります。本会の遺跡調査・研究発表会は１日での開催となっているため、１日に大量の遺物を会場に搬入しその日の内に搬出することはほとんど不可能なことなので、地方自治体との共催などの機会を得て実現できればと考えております。写真パネルの展示は実現性があるので検討して行きたいとおもいます。

「もっと広報すべきでは」とのご意見をいただきました。参加者の会員・非会員の区分をみますと、３割強を非会員の方がしめています。会員の方についてはダイレクトメールでの周知がされますが、非会員の方に対する周知をどの様にしたら徹底できるのか方法を模索しています。地方自治体との共催の場合は広報紙などを利用できますが、今回のようなケースの場合にはダイレクトメールの他には現在までのところ確立した方法が在りません。

「会費の値上げをしても発表会の要旨や機関誌の無料配布を行って欲しい。現状では会員となるメリットがほとんどない。」というご意見は、以前からいただいていました。本会は会員の会費によって支えられていることは言うまでもありません。しかし、一部の会費未納者がいるために予算が実態とは異なったものとなってしまいます。そのために刊行物の販売によって赤字になることを防ごうとするあまり会員であるメリットを充分に享受していただけないということになってしまっております。会費の滞納整理はかなりの時間と労力を必要とします。効率良くこれを実施する方法はまだ確立しておりません。長期間の会費未納者については、本会会員としての意志なしと判断するも止むを得ないとの考え方もあります。今後、会員増加のための方策と合わせて検討していかなければならない重要な課題であります。

以上アンケートにご協力いただきました集計結果に基づきみなさんのご意見を拝聴させていただき、これからの本会の運営に反映させていきたいと考えておりますので、今後も催しごとにアンケートに御協力よろしくお願いいたします。

なお、次回（第25回）の神奈川県遺跡調査・研究発表会は、2001年10月13日（土）平塚市中央公民館での開催を計画します。記念講演には俳優で本会の会員でもある刈谷俊介氏を予定しております。刈谷氏はご自身で本を書かれるほどの研究熱心な方で、どんなお話がうかがえるかとても楽しみです。多くの会員の参加をお待ちしております。

（幹事　加　藤　信　夫）

見学会から

岩宿遺跡見学会の感想

磯　貝　基　子

横浜駅に集合した私たちはバスで岩宿遺跡に向かいました。バスの中では東海大学の織笠先生による岩宿遺跡に関する講義が行われました。①岩宿遺跡の発掘とその意義、②石器作りとその文化、③『前期旧石器時代遺跡』捏造問題とその背景、という内容でした。私はそれまで岩宿遺跡は相沢忠洋さんが発見し縄文時代以前の文化の存在を証明した有名な遺跡だ、という単純な理解しかしていませんでした。しかし、この講義を聴いて、岩宿遺跡の持っている深い意味を知ることができました。これはこの後の見学を私にとって意味のあるものに変えました。

遺跡では、当時の発掘現場や、遺構保護観察施設（岩宿ドーム）、資料館などを見て、最後に石器作りを見学しました。資料館に展示してある石器がレプリカだったのが残念でしたが、岩宿遺跡の発掘の様子や、岩宿時代のヒトの狩猟や生活の道具である石器の作り方・使い方、相沢氏の業績などを見ていくうちに岩宿遺跡が日本史だけでなく、世界史的なレベルで重要視されるのが納得できました。帰りのバスの中では、見学を終えての感想や質問などが発表され、質問については織笠先生が答えられました。さまざまな質問が出され、皆さんにとってこの見学会が大きな成果になったのだと感じました。

岩　宿　遺　跡

岩宿遺跡見学会に参加して

菅　原　潤　子

見学会当日、無事バスに乗り込むと、思っていたより多い参加者の数に驚かされた。高速道路で群馬県へ。バスが現地の駐車場に着くと、私はどこに岩宿遺跡があるのかと辺りを見回したが見当たらず、そのかわりに近代的な建物である岩宿文化資料館が見えた。

Ａ地点は地表が草で覆われ、石器が発見された関東ローム層を実際に見ることは出来なかったが、石碑や看板にその発見が記されていた。

私は今回、相沢氏などの発見に対し、当時は猛烈な反論があった事を初めて知った。今では日本に旧石器時代があったということは皆が認めているが、そういった認識に至るまでには大変な時間と労力が費やされたのだろう。人々が持つ既成の概念は、モノを判断する場合には重要な基準となるが、新たな見方や考え方をさせにくくすることもあると言える。このことは常に自分の心に留めておかねばならないと思った。

またこの様な会が行われた時には参加し、新たな体験をしていきたい。

∞　∞

私と岩宿遺跡

野　川　由紀子

バスに揺られて岩宿遺跡に行ったので、楽と言えば楽だったのですが、乗り物が私は大の苦手なのです。従って、乗り物酔いをする私は、乗り物酔いに抵抗していたので、往復の織笠先生の話や、他の方達の話は途切れ途切れにしか聞くことが出来ませんでした。ですので、岩宿遺跡にいる間の話を書きます。

考古学に興味を持つ者ながら、岩宿遺跡に行ったことが私にはありませんでした。ですから、先生方の解説付きで見学できたのは、とても嬉しいことでした。

まず、外の岩宿遺跡の発掘現場での解説。たびたび通る車の騒音のために聞き取れない所もありましたが、発掘に至る経緯、発掘最中の話などを聞くことができ、ためになりました。赤土から石器が出ることを正しく証明するために、横から掘っ

たということを聞きました。写真でもありましたが、みんな並んで掘っていたことは、何かほほえましいものを感じてしまいました。また、資料館の前の沼で、相沢氏が初めて見つけた石器を洗ったという話は、何か発見を身近に感じさせてくれるものがあったように思います。

館内での見学では、織笠先生が解説をつけて下さいました。特に、石器に使われてる石については、すごいと思いながら拝聴させていただきました。

私も、先生方のように知識を身につけてゆきたいと感じました。最後に、石器を作る過程はとても根気と技術のいるものだと感じました。素晴らしかったです！

∞　∞

「岩宿遺跡」見学会に参加して

鈴　木　弘　太

今回の見学会は2月4日に交通所要時間6時間、現地見学3時間という行程でおこなわれた。これだけ聞くと、ずいぶん無駄な時間があったように思えるかもしれないが、実際はその正反対で、行きの3時間は岩宿遺跡・旧石器時代の講義そのものだった。横浜に午前8時30分に集合し、群馬県新田郡笠懸町に到着するまでの間、織笠昭先生の

1.岩宿遺跡の発掘とその意義　2.石器作りとその文化　3.「前期旧石器時代遺跡」ねつ造問題とその背景という3つの御教示を受け、特に3.の問題はこの見学会に岩宿遺跡が選ばれた理由「ねつ造問題を考え、日本の旧石器時代の原点を見つめなおす」という意味も込められていました。

また1.の「岩宿遺跡の発掘とその意義」ということで、日本列島最古の住民が、今から1万年以上も昔にさかのぼることをはじめて明らかにした遺跡として、注目される遺跡の中の一つであり、この岩宿遺跡が栄えた1万年より前の時代がヨーロッパでいわれる「旧石器」とそれと対比して使われる「新石器」という時代の歴史区分の見直しについても考えさせられました。現在日本では世界的に使用される「旧石器時代」と日本列島での人類の特殊性を尊重するという点からの「先土器時代」という2つの意見があり、「旧石器」か「先土器」のどちらかあるいは両方が併用されて用いられています。しかし「旧石器」を使うことも「先土器」を使うこともそれぞれの長所と短所があると指摘した上で「岩宿時代」を時代区分名として使うべきだとの意見もあります。いずれを使うとしても、日本列島における人類史の一時代として、地域に密着した時代区分のもとで研究を進めるべきだと思います。逆に今日までの研究過程で、発生した矛盾を解消しうる時代名称を用いるべきであるという点では、このような事は「岩宿遺跡の発掘」が一つの指標となっている事を重視する考えも捨て去れないと思いました。

目的地岩宿文化資料館に到着しまして、最初の見学場所は、相沢忠洋さんが最初に発掘を行った場所（A地点）でした。ここでの説明の中で自分が一番興味をもったのは、現在発掘とは平面を掘り下げていくという自分の固定概念をくつがえすもので相沢さんら調査団は崖面を縦にセクションと平行する形で掘り進めていきました。これは調査団が関東ローム層にいかに固執していたかがわかります。

しかし、1949年からの発掘では現場進行上の理由もあり、遺物の採集しかできませんでしたが、そこに生活文化面があり、何らかの痕跡が残っていた場合、平面でとらえたほうが位置関係、遺物の分布等を把握し社会構造のようなものも確認できたのかもしれないという思いが残りました。

A地点では直接見る事ができなかった土層断面は、館内のレプリカでローム層が黄褐色細粒砂の阿佐見層、暗褐色粘土層の岩宿層、角礫質粘土層の金毘羅山層の3層にわかれており、岩宿の石器が発見された層も確認できました。

神奈川県の酒匂川段丘礫層の崖を発掘し、火成岩製の石片を発見したイギリスの医師ニール・ゴードン・マンロー、大阪府の国府遺跡で旧石器を発見した国史学者喜田貞吉、西八木海岸で加工痕の残る瑪瑙を発見した直良信夫、等数々の先人たちの夢を現実とした国指定史跡岩宿遺跡はまさに日本旧石器時代の原点とも言えるべき場所でありました。

（参考文献：笠懸町教育委員会　1992『岩宿時代』／森浩一　1983『日本の遺跡発掘物語　1　旧石器時代』社会思想社）

平成12年度考古学講座「相模野旧石器編年の到達点」が開催される

考古学講座開催前の状況

昨年11月５日に発覚した前期旧石器捏造事件は、我が国の考古学史上かつてない重大な事件でした。直後から、国民の関心事として、大きな話題となり、連日ニュースで大きく取り上げられました。捏造発覚後、「君達も大変だねー」と言って心配してくれる方もいましたが、「お前も埋めてないだろうな」という発言も多く、これには閉口しました。

さて、平成12年度の考古学講座は捏造事件に関する国民の関心も薄れてきた頃の３月11日に開催となったわけですが、直前に悲しい出来事（訃報）にふれ、主催者側としては不安な幕開けとなりました。当日は、捏造問題への関心が高かったことと関係してか、「旧石器編年研究」というマイナーなテーマにも関わらず多くの参加者がありました。参加者約150名といったところでしょうか。

講座の内容

まず、寺田会長から捏造事件を踏まえながらの開会挨拶があり、考古学講座が始まりました。

最初の発表は主旨説明を兼ねる形で、諏訪間が「相模野旧石器編年の到達点」として、今回の講座の主旨、各発表の内容のガイダンス、そして、相模野台地における研究の歩みを振り返り、編年研究の現状と展望について発表しました。捏造事件の発覚により、旧石器時代研究への信頼が大きく揺らいでいる中で、研究者の一人として、自らの足元の研究をしっかりと見つめ直し、再検討していくことが必要であることを述べさせていただきました。

相模野台地は層位的な出土事例に恵まれ、全国的に見ても最も精緻な編年研究が行われてきた研究の歩みを振り返ると共に、こうした研究が進んだ背景についても述べさせていただきました。また、石器組成や剥片剥離技術の変遷を捉えて区分されてきた編年から、これからは、遺跡の残され方や遺跡間の関係性を重視した遺跡構造編年へと向かうべきだとの提言も行いました。

続いて、小池聡さんは「相模野台地の立地と文化層」と題し、相模野の地形や遺跡立地、層位や石器の出土状況などについてスライドを用いながら解説をしていただきました。

鈴木次郎さんは「ナイフ形石器文化前半期の様相」と題し、相模野Ⅰ期からⅡ期（立川基底部からB2L下部）までの石器群を編年を丁寧に報告していただき、現状では相模野最古の石器群は吉岡遺跡群Ｄ区Ｂ５層の石器群であるとの指摘をされました。

織笠　昭さんは「ナイフ形石器文化後半期の様相」と題して、ナイフ形石器文化の終焉はＬ２層でＢ１層下部で尖頭器が出土した以降は尖頭器文化だとする自説を改めて提示されました。

昼食を挟んで、午後は砂田佳弘さんに「尖頭器文化～細石器文化の様相」と題し、主に細石刃の出現やその変遷について報告されました。また、自説である細石刃列島自生説を開陳されました。以上の５人の発表が相模野旧石器編年の前提や具体的な内容の提示でしたが、これらの発表に対し、白石さんが「相模野旧石器編年の問題点」と題し、全国的な視点に立って相模野旧石器編年の問題点を指摘されました。その中で、相模野最古とされ

る吉岡遺跡群などのＢ５層の石器群は中期旧石器時代との関係が強いことなどを指摘されました。最後に、御堂島正さんから「最新の年代観（ＡＭＳと暦年代）」と題し、最新の年代測定方法の現状や課題について概説するとともに相模野での較正年代を示されました。

討　論

司会を私が行い、各発表者にパネラーになっていただき、①相模野最古の石器群とは②相模野第II期とIII期の連続性③ナイフ形石器文化の終末④細石刃の出現などのテーマで討論が行われました。

また、その中で、実験考古学の立場から、御堂島さんの東北の前中期旧石器の捏造問題に絡めて、「加熱処理」と「遺物の水平出土」についての解説がありました。

討論の最後に、会場から静岡県の池谷信之さん、長野県の堤隆さん、東京都の五十嵐彰さん、同じく東京都の伊藤健さんからコメントをいただき、層位や文化層、石材の問題など相模野旧石器編年の課題や問題点などについての指摘をしていただきました。

層位的出土事例に恵まれている相模野ではありますが、パネラーそれぞれに石器群の評価の違いがあり、大枠の編年としては共通するものはありますが、細部にわたっては、まだまだ、統一的な見解とは言い難い部分も多いことがご理解できたのではと思います。

最後に閉会の挨拶を伊東秀吉副会長が述べ無事に閉会となりました。

閉会後は恒例の懇親会が60名近くの参加を得て、盛大に開かれ、旧石器の話しに大いに盛り上がりました。

最後に企画段階から、十分な準備ができませんでしたが、パネラーの方々や多くの関係者の協力があり、無事に終了することができました。この場をお借りして御礼申し上げます。

なお、この講座の成果集の作成を進めています。会員の方で、感想なり、コメントのある方は諏訪間まで申し出ていただければ幸いです。

また、捏造問題に関する所見は諏訪間及び砂田さんの論文の最後に掲載されていますので、こちらも併せてお読みください。

予稿集はＡ４版108頁　会員価格800円　一般価格1,500円で頒布しております。

（幹事　諏訪間　　順）

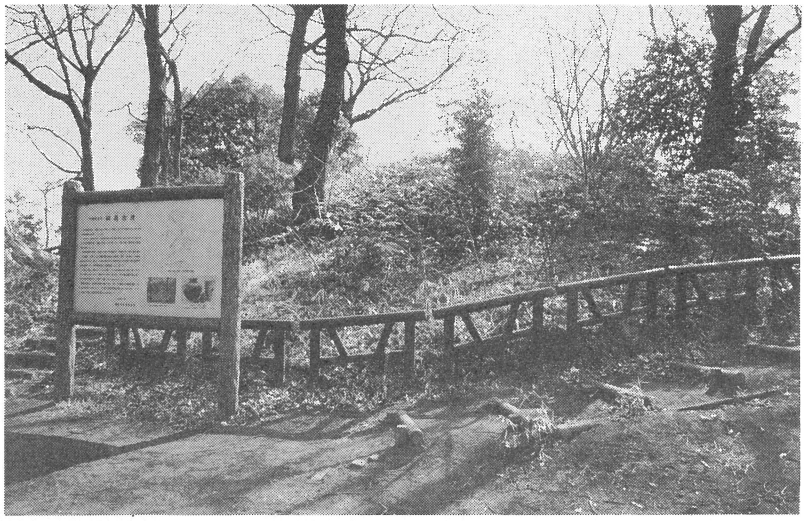
かながわの史跡めぐり よこはま編Part1

綱島古墳・市ヶ尾横穴古墳群・稲荷前古墳群

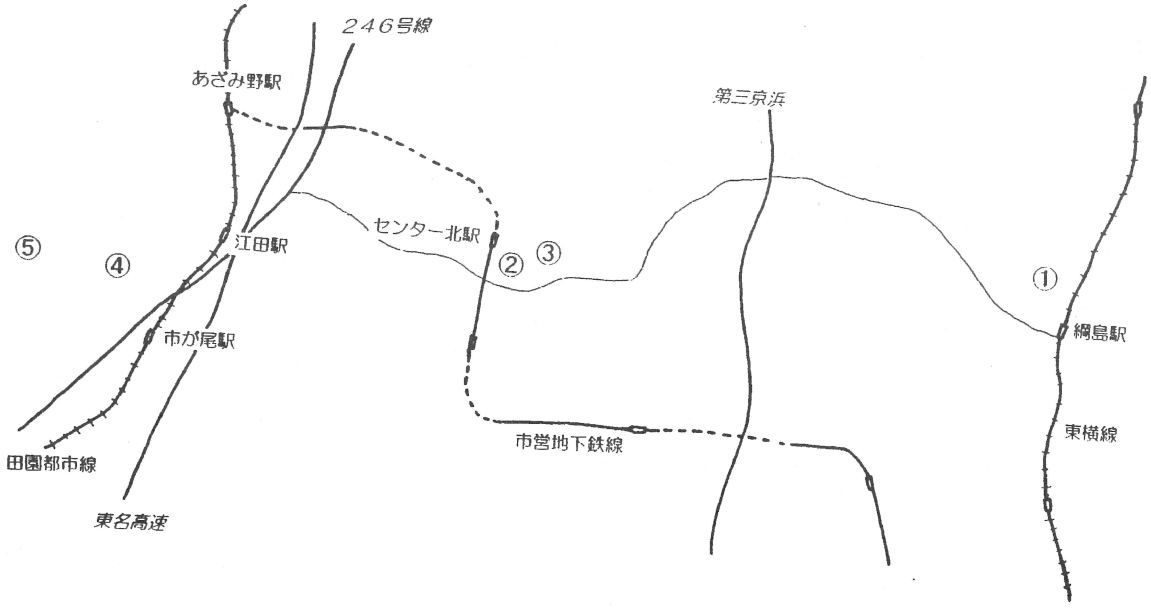
会員　今井康博

4世紀後半に主要な河川流域で古墳造りが始まった横浜市域には、現在までにおよそ80基の古墳が知られていますが、多くは開発のために失われてしまいました。そのなかで市域北部を東流する鶴見川流域には史跡として保存・整備された綱島古墳・市ヶ尾横穴古墳群・稲荷前古墳群などがあります。今回は、これらの古墳と途中にある市歴史博物館を1日で巡るコースを紹介しましょう。

出発場所は東急東横線綱島駅前です。同駅から北方へ徒歩5分、坂道を進むと綱島台公園の木立の中に「綱島古墳」①（所在地：港北区綱島台2702）が保存されています。昭和29年に横浜市史の編集作業の一環として行われた分布調査の際に岡本勇先生等によって発見され、平成元年の発掘調査を経て、市史跡に指定されました。標高30m独立丘南端部にあり、径20m・高さ3mの5世紀後半に築かれた円墳で、須恵器甕、円筒埴輪、鉄刀、鉄族



綱島古墳



などが出土しています。古墳の概要を表示した案内板や埴輪のレプリカが設置されています。

綱島駅前に戻り、東急バスの江田駅前行に乗車し、30分程の停留所：茅ヶ崎新道で下車すると「横浜市歴史博物館」②があります。市内の古墳の概要と出土した副葬品と埴輪が紹介されています。近接して弥生時代の環濠集落と墓地からなる国史跡「大塚・歳勝土遺跡」③が歴史公園として整備されています。弥生時代の方形周溝墓群も復元され、古墳との規模の相違を体感することができます。

大塚・歳勝土遺跡から西方へ５分、市営地下鉄センター北駅から乗車し、東急田園都市線あざみ野駅を経由して市が尾駅で下車します。西方にある市ヶ尾小学校を目標に徒歩10分、県指定史跡「市ヶ尾横穴古墳群」④（所在地：青葉区市ヶ尾町1639）があります。谷頭の斜面に分布する２群19基の横穴墓を見学することができます。昭和８年に発見以来４回調査されましたが、昭和31年に市史編集のための発掘では、横穴墓の前方部を掘り下げて須恵器瓶や土師器甕、直刀等を置いて祭祀を行う広場が全国で初めて確認されました。各種のタイプの横穴墓が存在し、６世紀後半から７世紀後半にかけての農業生産の発展を背景に成長した有力農民層がつくったものと考えられています。

市ヶ尾横穴古墳群からバス通りを西方へ約15分、右手の丘陵上に「稲荷前古墳群」⑤（所在地：青葉区大場町156）があります。昭和42年の宅地造成時に発見、調査されました。４世紀後半～７世紀の古墳10基と横穴墓３群からなる横浜市域最大の古墳群で、谷本川流域一帯を治めた歴代の豪族の墓とみられています。前方後円・前方後方・円・方墳など各種の形態が存在し、「古墳の博物館」として全国的に注目されましたが、これらのうち前方後方墳、方墳２基が神奈川県指定史跡として保存され、園路や墳丘などが整備されています。古墳の上からは、南方には谷本川流域の沖積地そして富士山や丹沢山地の山並みが一望でき、東方では市ヶ尾横穴古墳群を確認することができます。

特集／前期旧石器時代遺跡のねつ造事件に思う

平成12年11月は、日本の考古学界は言うに及ばず内外の様々な機関や人々に不幸で憂うべき衝撃を与えたことで始まりました。ある人には悲劇に、またある人には喜劇ないしは茶番劇に映ったであろう一考古学研究者による背信行為、世に言う“旧石器ねつ造事件”の発覚です。それまでまるで味方のごとく振舞っていたマスコミが、手のひらを返す勢いで事件の張本人に一斉攻撃を開始したことで、日本のジャーナリズムの貧困さまでも改めて露呈させることとなりました。

今回のねつ造事件に対する意見や感想を「会員の声」として掲載しておきたいと思います。去る２月４日に行われた岩宿遺跡見学会の際の車中アンケートを中心に文意をなるべく要約して、以下にお伝えするものです。

♀　悲しく、とても腹の立つことで絶対に許せないことです。今までに発掘したもの全てを廃棄して、今後の発掘にのみ頼るほか解決はないと思う。

♂　発掘責任者が遺跡のねつ造をしていたとは、信じられない出来事でした。Ｃ市のＯ遺跡の見

学会にも参加して感動したので、そこも疑いがもたれていると聞いて大きなショックを受けている。真実を追求する考古学研究者の手による歴史のねつ造は、魔が差したでは済まされない。

♀　とにかく33年前に立ち戻って、考古学や先史学に携わるものは真摯な態度で1点の遺物から、そして自分の足元から見つめ直すべきであると思います。そのためには、日本の人類学者や自然科学者の批判にあるように、日本考古学界にある根強い古くて悪い“体質”を、年配の方々（少なくとも50歳以上の）が先陣を切って変えていっていただくよう努力してほしい。

♂　今回の事件では、その発見・発表のまもなく全面的に承認されてしまった経緯は不思議というほかありません。事実に対する確認は今後どのようにされるのか、慎重を期すあまり無駄な時間をかけないように…。

♂　あまりよい感じがしません。批判されている通りだと思います。

♂　昔に比べて最近の学界は論争が少ないようです。今回の事件を契機として、多くの人々による積極的な議論が行われればと思います。

♀　F氏による旧石器ねつ造の自供とほぼ時期を同じくして、鳥取県米子市では20代の女性による新生児ねつ造、否、生後間もない女児の連れ去り事件が起こりました。一見、何の接点もないように感じますが、私には本質的な意味では非常に共通した、人間の愚かで弱い部分を垣間見る思いがしました。犯人の女性は、交際男性の心を引き留めるために妊娠を装い、出産の体裁を整えるために犯行を決意したとのことです。在野のF氏もきっと旧石器時代研究、とりわけ前期旧石器分野の牽引車的人物としての注目をつなぎ止めるために遺跡を偽装し、新発見の体裁を整えるために各地での所業（犯行）を繰り返してしまったのでしょう。実に哀れな話です。しかし、考古学に少しでも携わる者にとって“ねつ造”は、常に隣合わせの問題として自覚する必要があるのではないでしょうか。発掘現場や整理作業での測図を未熟な技術のために実資料とは異なるように〈虚測〉してしまい、さらに報告（公開）するに至ってはすでに立派な常習ねつ造事件と言えましょう。研究者を自認される方々には是非、今回の事件を「他山の石」ならぬ「他山の石器」とし、強く肝に銘じてもらいたいと思いました。

♂　F氏は、やってはいけないことをやってしまい、「魔がさした」と述べていましたが、何とも言いようのない淋しさを感じました。この償いをどのようにして今後やっていこうとしているのか、見守っていきたいと思っています。

♂「何のために」という疑問、そしてその遡る年代の古さに今ひとつイメージが湧いてこないもどかしさを否定できない、というのが本音です。

？　何ともやり切れない思いです。個人の問題として片付けられることなのか、またはその背景にも問題があるのでは、と思いあぐねる昨今です。

展示会・講演会等情報

（注：展示期間中の休館日等は個々にお尋ねください）

●平成13年度特別展「顔がついた土器－縄文時代の顔面付土器を中心に－」

縄文時代から平安時代までの出土土器で、「顔」や「身体」の表現されたものを展示し、当時の人々の精神文化の一端について考える機会とします。展示点数約80点。

６月３日（日）～７月15日（日）、大田区立郷土博物館（Tel03-3777-1070）、都営浅草線「西馬込駅」下車徒歩７分、無料。

●特別展「甦る大環濠集落－吉野ヶ里から大塚まで－」

大塚・歳勝土遺跡公園の開園５周年を記念して横浜市域の弥生時代をふりかえるとともに、大型の環濠集落として著名な池上曽根遺跡、唐古・鍵遺跡、吉野ヶ里遺跡などの資料を展示します。

７月20日（金祝）～９月２日（日）、横浜市歴史博物館（Tel045-912-7777）、市営地下鉄「センター北駅」下車徒歩５分、有料。

●考古学講座（第１回）

６月16日（土）10:30～16:00　１部「考古学の研究－古墳時代を中心に－（入門編）」植山英史（財　かながわ考古学財団）・２部「宮山中里（寒川町No.27）遺跡見学会、寒川町寒川総合体育館多目的室（JR寒川駅下車徒歩12分）・宮山中里遺跡、無料、６月１日必着抽選（往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記して問合せ先へ）、定員150名、問合せ：財　かながわ考古学財団資料活用課（〒232-0033横浜市南区中村町3-191-1、Tel042-374-8044）。

刊行物のご案内

県考古学会では次のような刊行物を発行いたしておりますので、ご利用くださいますようご案内いたします。

考古論叢神奈河　　価格（円）

	会員	一般
第２集	1,800	2,500
第３集	1,800	2,500
第４集	1,800	2,500
第５集	1,800	2,500
第６集	1,500	2,500
第７集	1,500	2,500
第８集　日野一郎先生追悼記念号	1,500	2,500
第９集　岡本勇先生追悼記念号	1,500	2,500

考古学講座レジュメ

	会員	一般
かながわの古代集落（残部僅少）	700	1,000
かながわの縄文文化の起源を探る	700	1,000
かながわの弥生時代の社会	700	1,000
神奈川の古墳	700	1,000
縄文ムラの風景	800	1,000
神奈川の古墳－討論会成果集－	100	400
かながわの古代寺院	500	1,500
かながわの古代寺院－研究の成果	500	1,500
相模野旧石器編年の到達点	800	1,500

調査研究発表会発表要旨

	会員	一般
第１６回（平成４年）	1,000	1,300
第１７回（平成５年）	1,000	1,300
第１８回（平成６年）	1,200	1,500
第１９回（平成７年）	1,200	1,500
第２０回（平成８年）	1,200	1,500
第２１回（平成９年）	500	1,000
第２２回（平成10年）	700	1,000
第２４回（平成12年）	800	1,500

毎年、総会・調査研究発表会・考古学講座開催の折りに販売致しておりますのでご利用ください。なお、おいでになれない場合は、お手紙又はお葉書にて事務局までご注文くだされば送料実費にて振替用紙同封の上お送り申し上げます。お気軽にご連絡ください。

また、５月20日（日）日本考古学協会総会開催時にも販売致しますので、おいでの際はお立ち寄りください。

日本考古学協会第67回総会　於：駒沢大学

〈交通〉東急田園都市線駒沢大学駅下車徒歩６分

＊入場は無料です。全国規模の調査研究発表会が開催されます。

会員動向　（2001年３月30日現在）

新入会員

阿曽　正彦　〒246-0037　Tel090-4662-8045
横浜市瀬谷区橋戸2-40-1-B203

安宅　忠利　〒252-0801　Tel0466-45-4722
藤沢市長後2411-5

阿部　功嗣　〒212-0057　Tel044-88-9569
川崎市幸区北加瀬1-11-11-504

岩楯　英子　〒238-0053　Tel0468-52-1483
横須賀市望洋台21-7

岡田　亜澄　〒229-0001　Tel042-758-5853
相模原市上矢部5-12-7

木崎　道昭　〒410-0312　Tel0559-66-2232
沼津市原379-2-101

小松　忠史　〒133-0051　Tel03-3659-7053
江戸川区北小岩4-24-15

澤田大多郎　〒102-0074　Tel03-3261-9272
千代田区九段南4-8-34　龍星閣

高橋　　毅　〒2248-0024　Tel467-24-2451
鎌倉市稲村ヶ崎1-7-10

田中　一夫　〒232-0025　Tel045-261-5862
横浜市南区高砂町1-1

西井　　享　〒421-0405　Tel0548-27-2471
静岡県榛原郡榛原町白井1291

伴　　彰一　〒241-0801　Tel045-921-0328
横浜市旭区若葉台2-20-106

藤田　健一　〒257-0003　Tel0463-79-1091
秦野市南矢名824-202

山田　光洋　〒224-0033　Tel045-943-1610
横浜市都筑区茅ヶ崎東3-21-21

若井千佳子　〒227-0045　Tel045-961-0034
横浜市青葉区若草台21-3-201

渡辺　徳子　〒210-0833　Tel044-277-5848
川崎市川崎区桜本2-14-1　日光ビル1F

住所変更等

小笠原永隆　〒276-0046　Tel047-480-0221
千葉県八千代市大和田新田476-10-1-302

奥山　和久　〒192-0041　Tel0426-23-7838
八王子市中野上町2-1-7

押木　弘己　〒247-0006
横浜市栄区笠間5-34-7

勝山　百合　〒421-2114　Tel054-296-2651
静岡市安倍口新田500-47　杉山方

北爪　一行　〒239-0808　Tel0468-25-2104
横須賀市大津町5-1-834

小林　健司　〒239-0841　Tel090-6008-5956
横須賀市野比2-14-4　第3菱沼荘5号

近藤真佐夫　〒965-0846
福島県会津若松市門田町飯寺字村西176-12

藤井　秀男　〒252-0822
藤沢市葛原2350

古庄　浩明　〒759-6121
山口県豊浦郡豊北町神田上

前川　里美　〒222-0023
横浜市港北区仲手原2-37-4-102

松本　　完　〒365-0052　Tel048-596-1405
埼玉県鴻巣市登戸283-2-B102

望月　幹夫　〒270-1434
千葉県印旛郡白井町大山口2-4-4-101

矢野　慎一　〒251-0031　Tel0466-50-2240
藤沢市鵠沼藤が丘1-11-28

山本　　薫→山本（三澤）薫

逝去された会員

大河内　勉（2001年３月）鎌倉市
神澤　勇一（2001年３月）横須賀市
木村美代治（2000年）

「考古かながわ」は会員のみなさんが自由に発言できる場です。みなさんの投稿をお待ちしています。事務局もしくはEメール（murasawa@par.allnet.ne.jp）まで。

考古かながわ　第20号

発　行　神奈川県考古学会
発行日　2001年３月31日
編集者　近藤英夫・曽根博明・土井永好・降矢順子・村澤正弘
事務局　東海大学文学部考古学研究室内
〒259-1207　平塚市北金目1117
郵便振替　00240-9-71208
印刷所　有限会社　湘南グッド